

北薩感染症情報

2024年第32週(8月5日~8月11日)

【問い合わせ先】〒895-0041 薩摩川内市隈之城町228番地1

北薩地域振興局保健福祉環境部(川薩保健所)健康企画課

電話 0996-23-3165 FAX 0996-20-2127

E-メール kita-kenkou-shippei@pref.kagoshima.lg.jp

川薩・出水保健所における定点報告疾患

◎: 警報発令中 ○: 注意報発令中

定点種別	対象疾患	警報レベル			注意報レベル	川薩保健所管内					出水保健所管内				
		開始基準値	終息基準値	基準値	前週報告数(人)	今週報告数(人)	定点報告数	前週からの増減	警報注意報	前週報告数(人)	今週報告数(人)	定点報告数	前週からの増減	警報注意報	
		定点報告数													
内科・小児科 定点	インフルエンザ	30.0	10.0	10.0	1	3	0.43	↗	—	3	5	1.00	↗	—	
	COVID-19	—	—	—	67	55	7.86	↓	—	83	56	11.20	↓	—	
小児科定点	RS	—	—	—	11	11	2.75	→	—	30	23	7.67	↓	—	
	咽頭結膜熱	3.0	1.0	—	5	7	1.75	↗	—	2	6	2.00	↗	—	
	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	—	3	6	1.50	↗	—	6	5	1.67	↓	—	
	感染性胃腸炎	20.0	12.0	—	11	9	2.25	↓	—	5	2	0.67	↓	—	
	水痘	2.0	1.0	1.0	4	1	0.25	↓	—	—	—	—	→	—	
	手足口病	5.0	2.0	—	23	19	4.75	↓	◎	27	36	12.00	↗	◎	
	伝染性紅斑	2.0	1.0	—	—	—	—	→	—	—	—	—	→	—	
	突発性発疹	—	—	—	1	4	1.00	↗	—	—	1	0.33	↗	—	
	ヘルパンギーナ	6.0	2.0	—	15	17	4.25	↗	—	1	6	2.00	↗	—	
	流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3.0	1	—	—	↓	—	—	—	—	→	—	
眼科定点	急性出血性結膜炎	1.0	0.1	—	—	—	—	→	—	/	/	/	→	/	
	流行性角結膜炎	8.0	4.0	—	2	5	5.00	↗	—	/	/	/	→	/	
基幹定点	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	→	—	—	—	—	→	—	
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	→	—	—	—	—	→	—	
	マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	→	—	—	—	—	→	—	
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	→	—	—	—	—	→	—	
	感染性胃腸炎 病原体がロタウイルスに限る	—	—	—	—	—	—	→	—	—	—	—	→	—	
指定医療機関からの インフルエンザ入院報告	—	—	—	—	—	—	→	—	—	—	—	→	—		
指定医療機関からの COVID-19入院報告	—	—	—	—	—	—	→	—	8	7	/	↓	—		
報告数合計	—	—	—	144	137	/	↓	/	165	147	/	↓	/		

<注意報・警報レベル>

- ・川薩保健所管内 手足口病(警報レベル)
- ・出水保健所管内 手足口病(警報レベル)

<全数報告>

- ・川薩保健所管内 追加 結核2例(第31週)
- ・出水保健所管内 なし

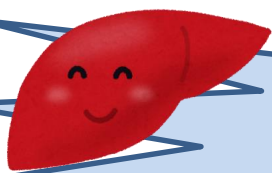
<インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等>

- ・川薩保健所管内 なし
- ・出水保健所管内 なし

定点種別	疾病	警報/終息 基準値	注意報 基準値	川薩保健所管内推移 (定点報告数) 基幹定点(報告数掲載)									
				23W	24W	25W	26W	27W	28W	29W	30W	31W	32W
内科・小児科 定点	インフルエンザ	30.00/10.00	10.00	1.29	0.57	0.14	—	—	0.29	—	0.57	0.14	0.43
	COVID-19	—	—	8.00	10.43	8.71	13.29	18.29	38.43	27.71	20.43	9.57	7.86
小児科定点	RSウイルス感染症	—	—	2.75	3.00	3.50	10.00	8.00	11.75	5.00	3.00	2.75	2.75
	咽頭結膜熱	3.00/1.00	—	2.00	2.25	2.50	1.00	—	1.50	—	1.50	1.25	1.75
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.00/4.00	—	3.00	4.00	1.75	1.75	1.50	3.00	1.25	1.00	0.75	1.50
	感染性胃腸炎	20.00/12.00	—	2.75	4.25	5.50	3.50	5.00	4.00	2.75	3.25	2.75	2.25
	水痘	2.00/1.00	1.00	0.50	1.00	0.25	1.25	—	1.25	—	—	1.00	0.25
	手足口病	5.00/2.00	—	8.25	8.00	6.75	8.25	12.00	10.50	8.75	6.75	5.75	4.75
	伝染性紅斑	2.00/1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	突発性発疹	—	—	0.50	0.50	0.25	0.25	0.50	—	—	0.25	0.25	1.00
	ヘルパンギーナ	6.00/2.00	—	0.25	0.25	0.50	0.25	3.00	5.00	1.75	4.50	3.75	4.25
流行性耳下腺炎	6.00/2.00	3.00	—	—	—	—	—	—	—	—	0.25	—	
眼科定点	急性出血性結膜炎	1.00/0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	流行性角結膜炎	8.00/4.00	—	5.00	2.00	6.00	—	4.00	—	3.00	2.00	2.00	5.00
基幹定点	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	感染性胃腸炎 病原体がロタウイルスに限る	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

定点種別	疾病	警報/終息 基準値	注意報 基準値	出水保健所管内推移 (定点報告数) 基幹定点(報告数掲載)									
				23W	24W	25W	26W	27W	28W	29W	30W	31W	32W
内科・小児科 定点	インフルエンザ	30.00/10.00	10.00	—	0.20	—	0.20	0.80	2.40	5.20	1.80	0.60	1.00
	COVID-19	—	—	4.60	3.60	5.00	6.20	15.20	35.00	44.20	26.80	16.60	11.20
小児科定点	RSウイルス感染症	—	—	2.33	2.33	2.33	6.67	4.67	3.00	8.67	8.67	10.00	7.67
	咽頭結膜熱	3.00/1.00	—	7.00	4.67	2.67	0.67	1.33	—	1.00	—	0.67	2.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.00/4.00	—	11.00	11.67	12.67	15.00	5.33	9.67	5.33	2.67	2.00	1.67
	感染性胃腸炎	20.00/12.00	—	4.33	3.67	2.67	3.67	2.00	7.67	3.00	1.33	1.67	0.67
	水痘	2.00/1.00	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	手足口病	5.00/2.00	—	2.33	5.00	5.00	6.00	9.67	8.33	5.67	5.67	9.00	12.00
	伝染性紅斑	2.00/1.00	—	—	—	0.33	—	—	—	—	—	—	—
	突発性発疹	—	—	0.33	0.33	—	0.33	0.33	1.00	0.67	0.33	—	0.33
	ヘルパンギーナ	6.00/2.00	—	—	1.00	0.67	0.33	0.67	2.67	1.67	0.67	0.33	2.00
流行性耳下腺炎	6.00/2.00	3.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基幹定点	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00	—	—
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	感染性胃腸炎 病原体がロタウイルスに限る	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第32週においては、川薩地域および出水地域共に手足口病の警報が続いています。インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等はありませんでした。全体的な報告数は減少傾向ですが、例年、お盆休み後に報告者数が増える傾向にあります。引き続き、感染症対策を心がけましょう。手足口病については、厚生労働省からも注意喚起がありました。2歳以下の報告が大半を占めていますので、保育園や幼稚園は特に注意が必要です。軽症で済むことが多い病気ですが、まれに中枢神経系の合併症を起こすため、子どもの様子をよく観察することが大切です。アルコールは効果があまり期待できないため、石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。



B型、C型ウイルス性肝炎について
理解を深めましょう！

・血液感染
・垂直感染

ウイルス性肝炎

ウイルス性肝炎とは、A型、B型、C型、D型、E型などの肝炎ウイルス感染によって引き起こされる、肝臓の病気です。肝炎になると、肝臓の細胞が壊れ、肝臓の働きが悪くなります。感染してから数ヶ月のうちに身体からウイルスが排除され、その後に免疫ができる「一過性感染」と、長期にわたってウイルスが肝臓に住みついてしまう「持続感染」（「キャリア状態」とも呼ばれます）があります。

B型及びC型は主に血液を介して感染し、慢性の肝臓病を引き起こす原因になります。

原因病原体: B型肝炎ウイルス(HBV)、C型肝炎ウイルス(HCV)

症状: 全身倦怠感、食欲不振、悪心、嘔吐、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)

潜伏期: 数ヶ月～

特徴: 自覚症状がない場合も多く、献血や検診時に気づく場合もあります。



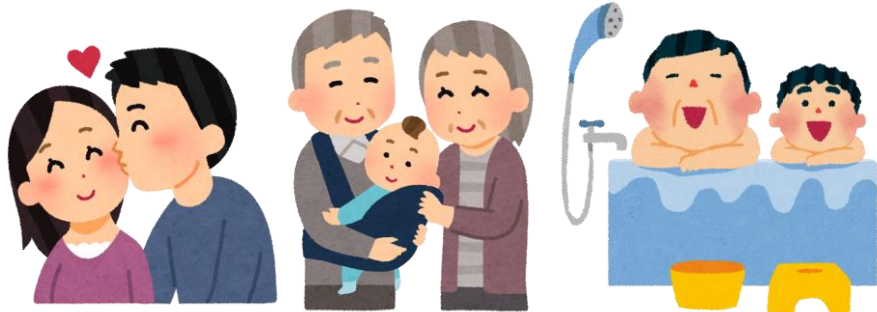
STOP

検査目的の献血は絶対にやめてください。

献血における検査にも限界があります。
医療機関や保健所で検査をしましょう。

以下の行為では肝炎ウイルスは感染しません。

- ・握手する
- ・抱っこする
- ・隣に座る
- ・軽いキスをする
- ・一緒に入浴する
- ・同じ食器を共有する



※ごく常識的な注意事項を守っていれば、日常生活において周囲の人への感染はほとんどありません。

肝臓は「沈黙の臓器」といわれ、重症化するまで自覚症状が現れない場合があります。

症状がなくてもきちんと検査し、早い発見と治療を続けることが大切です。



図表8-5-1 B型肝炎及びC型肝炎について

	B型肝炎	C型肝炎
原因ウイルス	B型肝炎ウイルス	C型肝炎ウイルス
病原体の発見	1968(昭和43)年	1988(昭和63)年
主な感染経路	血液感染等 (母子感染、家族内感染、医療行為、性感染等)	血液感染等 (大半は原因不明。血液製剤、医療行為等)
持続感染 (キャリア化)	<ul style="list-style-type: none"> ・2、3歳頃までに感染した場合は90%以上(最年長6歳頃まで)がキャリア化 ・成人の感染の場合は約1%(欧米型のウイルスでは10%程度)がキャリア化 ・キャリアの85~90%は無症状のまま経過 	<ul style="list-style-type: none"> ・約70%(年齢に関係なし)がキャリア化 ・自然経過では病状が徐々に進行し、多くは慢性肝炎を発症
キャリア数 ^{*1}	約110~140万人(推定)	約190~230万人(推定)
患者数 ^{*2}	約7万人(推定) (慢性肝炎 約5万人/ 肝硬変・肝がん 約2万人)	約37万人(推定) (慢性肝炎 約28万人/ 肝硬変・肝がん 約9万人)
治療法 (抗ウイルス療法)	<ul style="list-style-type: none"> ・インターフェロン治療(注射薬) 間接的に、ウイルスの増殖を抑え、肝炎を鎮静化させる。 ・核酸アナログ製剤(経口薬) ウイルスの増殖を強力に抑える。 →原則として、一生飲み続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターフェロン治療(注射薬) 間接的に、ウイルスの増殖を抑え、ウイルスを排除させる。 ・インターフェロンフリー治療(経口薬) 直接的に、ウイルスの増殖を強力に抑え、ウイルスを排除させる。 →12週間~24週間で飲みきり。
ウイルスの完全排除(治癒)	不可	可
ワクチン	あり	なし

※1 平成16年度厚生労働科学研究費補助金肝炎等克服緊急対策研究事業報告書(古澤班)より推計。

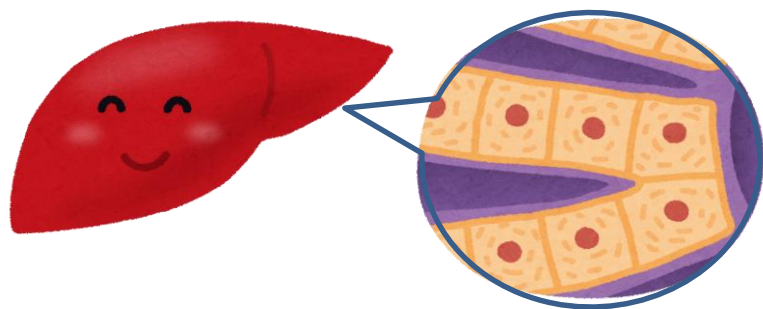
※2 患者数は、平成20年患者調査より推計。

ウイルス性肝炎は治療をしなければ肝硬変や肝がんといった重篤な病態に進行する可能性のある病気です。鹿児島県では、B型及びC型ウイルス性肝炎に対する治療費の一部助成を行っています。

(対象者)

- ・鹿児島県に住所を有していること
- ・C型ウイルス性肝炎の根治を目的として行われるインターフェロン治療及びインターフェロンフリー治療並びにB型ウイルス肝炎に対して行われるインターフェロン治療及び核酸アナログ製剤治療で保険適用となる治療を受けている(受ける予定である)こと
- ・医療(健康)保険に加入していること

肝炎治療認定審査会で適当と認められた方を助成対象患者と認定し、受給者証を交付いたしますので、医療費の助成申請を行う際は医師と十分にご相談ください。





8月4日は「はしかの日」です！

はしか(麻しん)とは...？



- ・空気感染
- ・飛沫感染
- ・接触感染

麻疹ウイルスによる急性の全身感染症です。肺炎や中耳炎を合併しやすく、患者の1000人に1人の割合で脳炎が発症するといわれています。空気感染をするのでマスクでは感染を防ぐことができません。麻しんの感染力は非常に強く、免疫を持っていない方が感染すると100%発症します。一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われ、予防接種がかなり有効ですので、定期接種は早めに確実に受け、2回接種していない方はかかりつけ医などの相談の上、接種を検討しましょう。

原因病原体: 麻しんウイルス

症状: 感冒症状(継続する発熱, 咳, 鼻水) → 39℃以上の高熱, 発疹

潜伏期: 10~12日

特徴: 感染力が非常に高く, 免疫のない方が感染すると100%発症する

鹿児島県子ども予防接種週間

「鹿児島県子ども予防接種週間」とは、保護者をはじめとした県民の予防接種に関する関心を高め、予防接種率の向上を図ることも目的として定められたものです。今年は、8月4日を「はしかの日」とし、同日含む8月1日～8月8日の8日間を実施期間としました。

この週間を機に、予防接種歴を見直し、必要だと判断したものについては接種を検討しましょう。

平成9年度生まれ～平成19年度生まれの女性の方へ (1997年4月2日～2008年4月1日)

平成25年～令和3年のHPVワクチンの接種を個別に推奨する取組が差し控えられていた間に公費での接種を逃した方がいらっしゃいます。こうした方に公平な接種機会を確保する観点から、改めて公費での接種の機会を提供しています。

●対象者

下記2つを満たす方

- ・平成9年度生まれ～平成19年度生まれの女性
- ・接種を過去にHPVワクチンの接種を合計3回接種していない方
(過去に1回もしくは2回接種した方含む)

●公費による接種可能期間

令和7(2025)年3月まで





ワクチンで防げる病気があります



鹿児島県 こども予防接種週間



8月1日(木)～8月8日(木)

8月4日は **はしかの日**

麻しん風しん混合(MR)ワクチン予防接種対象者

- | | | |
|----|---|------------------------|
| 1期 | … | 1歳の子ども |
| 2期 | … | 今年度6歳になる者
小学校就学前1年間 |

【定期予防接種】

MR (麻しん風しん混合)

五種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・Hib)
BCG・日本脳炎・Hib・小児用肺炎球菌
水痘・B型肝炎・ロタウイルス・HPV等

はしか、風しん、結核、
急性胃腸炎、肺炎、水ぼうそう
などの疾病を予防します。

厚生労働省HP「予防接種情報」→



【任意予防接種】おたふくかぜ など

- 予防接種希望者は、必ず事前に予約をしてから医療機関を受診してください。
- 定期予防接種を受ける際は、市町村より届いた説明書等を必ずお読みの上、お越してください。
- 母子手帳と予防接種予診票を必ずご持参ください。



HPV「キャッチアップ接種」

2025年3月まで

平成9～19年度生まれの女性対象

- ・ HPVワクチンは、子宮頸がん等の原因となるHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染を予防するためのワクチンです。
- ・ 平成9～19年度生まれの女性で、HPVワクチンの3回の接種が完了していない方を対象に、令和7年3月まで「キャッチアップ接種」として公費での接種機会が提供されています。
- ・ HPVワクチンの接種は合計3回（※）で、完了するまでに約6か月かかることから、公費で3回の接種を完了するためには、**令和6年9月までに1回目の接種を行う**必要があります。

※15歳未満の方はスケジュールが異なります。厚生労働省HP「HPV」→



主催：鹿児島県医師会・鹿児島県小児科医会・鹿児島県

後援：鹿児島県教育委員会・鹿児島県保育連合会・鹿児島市保育園協会・鹿児島県私立幼稚園協会

全国認定こども園協会 鹿児島県支部・認定こども園連盟 鹿児島県支部



海外へ渡航される皆様へ！

- ・空気感染
- ・飛沫感染
- ・接触感染
- ・媒介感染
- ・経口感染
- ・血液感染
- etc.

海外旅行を楽しむために

(厚生労働省検疫所 FORTHホームページより)

海外では、日本にはない病気がたくさんあります。さらに、海外旅行では時差や気候の違いにより、ストレスを受けてしまいます。その結果、免疫力が低下し、病気にかかりやすくなります。無理のないスケジュールを心がけ、避けられる危険を避け、楽しい旅行にしましょう。

旅行中に注意すべき事

- 生水、氷、カットフルーツの入ったものを食べることは避けましょう。
- 食事は十分に火の通った信頼できるものを食べましょう。
- 蚊・ダニに刺されないように服装に注意し、虫除けなどを使用しましょう。
日本では発生していない動物や蚊・マダニ等が媒介する病気が流行していることがあります。長袖長ズボンのような肌の露出が少ないもの、明るい色の服だと、虫がつきにくいいためおすすめです。
- 動物にはむやみに近寄らないようにしましょう。
動物は狂犬病や鳥インフルエンザウイルスを持っている可能性があります。また、ラクダもMARSコロナウイルスを持っている可能性があるため注意が必要です。
- 薬物やゆきずりの性交渉にも注意しましょう。
- 咳や発熱、発疹など、何らかの症状がある方との濃厚な接触は避けるようにしましょう。



海外渡航のためのワクチン

(厚生労働省検疫所 FORTHホームページより)

海外渡航者の予防接種には、入国時などに予防接種を要求する国(地域)に渡航するために必要なものと海外で感染症にかからないようからだを守るためのものがあります。

予防接種の種類によっては、数回(間隔をあけて2~3回)接種しなければならないものもあります。そのため、海外に行く予定がある場合には、なるべく早く(できるだけ出発の3ヶ月以上前から)、トラベルクリニックや医療機関等に予防接種を接種するワクチンの種類と日程の相談をしましょう。



海外渡航用ワクチンの接種費用については、接種する医療機関が個別に費用を定めています。

公的に費用を補助する制度はありません。しかし、海外勤務や長期出張の業務に伴う渡航の場合、雇用主が全額または一部費用を負担することがありますのでお早めにご相談されることをおすすめいたします。

【予防接種の種類と推奨される方】

(厚生労働省検疫所 FORTHホームページより)


予防接種	対象
黄熱	感染リスクのある地域に渡航する人 入国に際して証明書の提示を求める国へ渡航する人
A型肝炎	流行地域に渡航する人、70歳以下
B型肝炎	血液や体液に接触する（受診や性行為など含む）可能性のある人
破傷風	渡航先の仕事や辺境地への旅行などでケガをする可能性がある人
狂犬病	動物研究者など、動物と直接接触する人 イヌやキツネ、コウモリなどの哺乳動物が多い地域へ行く人で、特に医療アクセスがよくない地域へ行く人
ポリオ	流行地域に渡航する人
日本脳炎	流行地域に長期滞在する人（主に東南アジアでブタを飼っている農村部）
麻しん風しん	疾患への免疫が不十分な人
インフルエンザ	流行時期または流行地域に渡航する人
髄膜炎菌	流行地域に渡航する人、留学等に際して証明書の提示を求められる人、学生寮や宿舎での共同生活を予定している人

(厚生労働省検疫所 FORTHホームページより)


【一覧】海外で注意しなければいけない感染症

主な感染症	注意すべき病気	主な発生地域	海外渡航				予防方法		主な症状		
			リゾート 観光地	都市部	農村の 辺り	森林・農野	その他	予防接種	発熱	下痢	その他
食べ物 水	★ E型肝炎	世界各地	●	●	●	●	十分火の通った食べ物を食べる 生水は食べない		●		倦怠感、黄疸（体の皮膚や 白目が黄色くなる）
	★ A型肝炎	世界各地（特に、水道設備が 整っていない地域）	●	●	●			●		倦怠感、黄疸（体の皮膚や 白目が黄色くなる）	
	★ 赤痢	世界各地（特に、水道設備が 整っていない地域）	●	●	●				●	●	激しい腹痛
	★ 腸チフス	世界各地（特に、水道設備が 整っていない地域）	●	●	●		十分火の通った食べ物を食べる 生水は飲まないようにする		●	●	倦怠感、発熱、頭痛 （高熱位に比較的症状が重なり やすい）
	★ コレラ	世界各地（特に、水道設備が 整っていない地域）	●	●	●				●	●	嘔吐 下痢による脱水
事故・ケガ	★ 破傷風	世界各地	○	○	○	○	刺傷やケガに注意する	●			顔みだみにくい、しゃべりにくい、 首が硬い
蚊	★ マラリア	熱帯・亜熱帯地域（アジア、ア フリカ、中南米）	○	○	●	●	蚊避け剤の使用 蚊取り線香の使用 長袖・長ズボンの着用	予防薬（飲み薬）	●	○	悪寒、冷汗 頭痛、筋肉痛 寒熱往来
	★ デング熱	熱帯・亜熱帯地域（アジア、オ セアニア、アフリカ、中南米、 中南米）	●	●	○	●			●	○	目の奥の痛み 筋肉痛、発熱
	■ チクングニア熱	東南アジア、南アジア、アフリ カ、中南米	●	●	●	●			●		頭痛、筋肉痛、倦怠感、発熱、関節 痛、発熱、嘔吐
	■ ジカウイルス感染症	アフリカ、東南アジア、南アジ ア、カリブ海諸島、アメリカ大陸、 太平洋島嶼国	●	●	○	●			●		発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、倦 怠感、皮膚 発疹
	■ 黄熱	アフリカ、中南米	○	○	●	●		●	●		頭痛、筋肉痛、倦怠感
	■ ウエストナイル熱	北アメリカ ヨーロッパ南部 アフリカ、中東、アジア	●	●	●	●			●		頭痛、筋肉痛、倦怠感
	■ 日本脳炎	アジア	○	○	●	●		●			昏睡（痛みや刺激に反応しない）、 意識障害、痙攣
ノミ	■ ペスト	アフリカ、アジア、アメリカ大 陸			●	●	感染者の動物（マダラ、犬、猫）の体液 や分泌物への接触を避ける。 動物の糞尿を避け、虫除け剤を使う。 むやみに動物に近づかない 予防した受動物の痛み 知覚障害 発熱・発赤状態		●		腫れた受動物の痛み 知覚障害 発熱・発赤状態
動物	■ 狂犬病	世界各地 （特にアジア、アフリカ）	◆	◆	◆	◆	予防した受動物の痛み 知覚障害 発熱・発赤状態		●		発熱、頭痛、リンパ節腫脹
	■ 馬インフルエンザ	アジア、アフリカ		○	●		感染者、中傷、動物園などの農場との接 触を避ける。予防薬なし、うがい		●	○	呼吸器症状
	■ MERS	中東	◆	○	○		ヒトコブラクダなどの接触、生や加熱不 十分なミルクや肉類の摂取を避ける		●	○	呼吸器症状
	■ 日本脳炎	アジア	○	○	●	●		●			昏睡（痛みや刺激に反応しない）、 意識障害、痙攣
人	★ 麻しん	世界各地 （特にアジア・アフリカ・欧州）	●	●	●			●	●	○	咳、鼻水、結膜炎、発熱
	★ 風しん	世界各地 （特にアジア・アフリカ）	●	●	●			●			発熱、リンパ節腫脹
	■ ポリオ	中東・アフリカなど		○	○		手洗衛生	●		○	麻痺
	■ エムボックス	世界各地	○	○	○	◆	接触を避ける		●		発熱、頭痛、リンパ節腫脹
	★ 新型コロナウイルス感染症	世界各地	●	●	●		マスクの着用、手洗衛生		●	○	呼吸器症状、倦怠感、頭痛、 消化器症状
沼や湖河川	■ レプトスピラ症	世界各地			●				●		悪寒、頭痛、筋肉 痛、結膜炎
	■ 慢性血吸虫症	アジア、アフリカ、中南米など			○	○	流水（川や湖）での水遊びを控える		○	○	下痢・嘔吐、倦怠、 肝臓、脾臓の腫れ

★：最も注意をしなければいけない病気
◆：渡航先、活動内容によって注意をしなければいけない病気
●：感染する確率が非常に高いので十分に注意
○：感染する確率が少ないが注意が必要
◆：動物と接触する機会が多い場所には十分に注意
●：予防接種による感染を予防する
○：予防接種による感染を予防する
●：よくみられる症状
○：こまめにみられる症状



県から手足口病の 注意喚起がありました

- 
- ・飛沫感染
 - ・接触感染
 - ・糞口感染

手足口病とは...?

コクサッキーウイルス(特にA6, A16, A10)やエンテロウイルス(特に71)などを原因とし、口の中や手足に水疱を伴う複数の発疹が出る感染症です。子どもを中心に、主に夏に流行します。2歳以下が半数を占めますが、小学生でも流行的発生がみられる場合があります。基本的には軽い症状の病気であり、ほとんどの発症者は3~7日のうちに治ります。

成人を含めた小学生以上の大半は、すでにウイルスの感染を受けている場合が多いため、発症はあまり多くありませんが、典型的な症状が現れず、重症化する場合がありますので、注意が必要です。

原因病原体:コクサッキーウイルス, エンテロウイルスなど

症状:口の中や手のひら, 足底や足の甲に水疱を伴う複数の発疹の出現, 38℃以下の発熱(およそ1/3の確率)

潜伏期:3~5日

特徴:2歳以下が半数を占めるが, 手足口病の典型的な症状が現れず, 重症化する場合もある



保育施設や幼稚園などでは特に
注意をしましょう!

●以下の症状がみられる場合は医療機関への受診を検討しましょう。

- ・高熱がでる
- ・発熱が2日以上続く
- ・呼びかけに答えない
- ・嘔吐する
- ・水分が取れずにおしっこがでない
- ・ぐったりとしている
- ・頭を痛がる
- ・視点が合わない
- ・呼吸が速くて息苦しそう



アルコール消毒の効果は低い...

感染症対策

手や足、口の中などに
発しんはありませんか？

手足口病

手足や口の中などに水泡を伴う発疹の発しんが出る感染症です。発熱は発症した人の約3分の1で起こり、38度以下のことがほとんどです。多くの場合、数日間で自然に治りますが、まれに合併症を起こし、重症化することがあります。



発熱してから数日後に口や手足に水泡(発しん)がみられます。

流行時期



を中心に毎年発生します。2歳以下が半数を占めますが、小学生でも流行的発生がみられることがあります。

飛沫感染、接触感染、糞口感染(便と一緒に排泄されたウイルスが口に入って染すること)が知られており、特に乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などで注意が必要です。

感染経路

治療方法

手 手足口病に特別な治療法はなく、症状に応じた対症療法を行います。まれに重症化することがあるため、以下の症状がある場合は、医療機関への受診をご検討ください。

- 高熱が2日以上続く
- 嘔吐する
- 喉を痛がる
- 視線が合わない
- 呼びかけに答えない
- 呼吸が速くて息苦しそう
- 水分が取れずにおしっこがでない
- ぐったりとしている

受診を迷った場合や夜間・休日の場合は、「こどもの救急 (<http://kodomo-rescue.jp/>)」などのWebサイトを参照したり、「11900 (こども緊急電話相談)」にご確認ください。

- ✓流水や石けんによる手洗いをしましょう。
- ✓タオルの共用を避けましょう。
- ✓排泄物の適切な処理を行いましょう。

手足口病は治った後も比較的長い期間、便と一緒にウイルスが排泄されます。また、感染しても発熱しないままウイルスを排泄する場合もあると考えられます。

手足口病について ▶

